

CAMPUS HEALTH

2020.3

57 (1)

第57回全国大学保健管理研究集会
(北海道大学) 報告書



Japan University Health Association

第57回全国大学保健管理研究集会

The 57th Annual Meeting of Japan University Health Association

— 変動する価値観に対応しうる大学保健管理を目指して —

報告集

会期 2019年10月9日（水）・10日（木）

会場 札幌コンベンションセンター
札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1

主催 公益社団法人 全国大学保健管理協会
国立大学法人 北海道大学

後援 文部科学省

目 次

第57回全国大学保健管理研究集会 ごあいさつ

「変動する価値観に対応しうる大学保健管理を目指して」…………… 5

第57回全国大学保健管理研究集会 大会長 橋野 聡

I. プログラム

プログラム・日程表 …………… 11

II. 開会式…………… 17

III. 特別講演

1 大学生から始めるがん予防 浅香 正博 …………… 21

IV. 教育講演

1 大学のカルト問題-アレフへの対応を中心に 櫻井 義秀 …………… 25

2 日本食とメンタルヘルス～栄養精神医学の可能性 久住 一郎 …………… 26

3 防災・減災教育における教科横断的カリキュラムについて 佐々木貴子 …………… 29

4 ダニ媒介性脳炎：日本に潜在する感染のリスクと課題 好井健太郎 …………… 33

5 アスリートに対するコンディショニングサポート 寒川 美奈 …………… 36

V. シンポジウム

1 16年間の留学生の健康状態の変遷と保健管理業務 鈴木 眞理 …………… 41

2 海外留学する学生の健康管理の進め方 中川 克 …………… 44

3 多文化共生時代における留学生の精神保健：調査からみえる今日的・近未来的課題の検討 阪上 優 …………… 48

VI. 一般研究発表

優秀演題表彰 …………… 53

一般研究発表 …………… 55

VII. 展示ブース紹介

賛助会員交流コーナー / 企業展示コーナー …………… 395

VIII. 閉会式 …………… 399

IX. 名簿

第57回全国大学保健管理研究集会 事前参加登録者・研究発表者等名簿 …………… 403

第57回全国大学保健管理研究集会 運営委員会委員・幹事名簿 …………… 408

ご挨拶

変動する価値観に対応しうる大学保健管理を目指して

2019年10月9日・10日に札幌コンベンションセンターで、第57回全国大学保健管理研究集会を担当させて頂きました。研究集会のテーマを「変動する価値観に対応しうる大学保健管理を目指して」とさせて頂きました。大学保健管理においても、時事刻々と変化する社会の潮流に合わせて細かく対応する柔軟性と、いつの時代にも揺らぐことのない不変の信念とのバランスが重要と考えたからです。健康には、physical や mental な面だけではなく、social や spiritual な側面もあります。本研究集会の講演はそのテーマに沿って、physical では「大学生からのがん予防」、「ダニ媒介性脳炎：日本に潜在する感染のリスクと課題」「アスリートにおけるコンディショニングサポート」、mental では「日本食とメンタルヘルス～栄養精神医学の可能性」、social では「防災・減災教育における教科横断的カリキュラムについて」、spiritual では「大学のカルト問題-アレフへの対応を中心に」と題して、その領域のトップランナーの先生にご依頼いたしました。

「大学生からのがん予防」：北海道医療大学の浅香正博学長による特別講演です。北海道医療大学では2018年度より全学生・教職員に対して、禁煙による肺がん予防と、ピロリ菌除菌による胃がん予防のためのプロジェクトを立ち上げています。若い大学生のうちの生活習慣の改善や感染症の排除によりがんの予防ができるかどうかに着目して、将来のがんを撲滅しようという健康管理対策です。全国の大学が直ぐにでも見習うべき予防医学の一つと思われます。

「大学のカルト問題-アレフへの対応を中心に」：北海道大学の櫻井義秀教授・総長補佐による教育講演です。活発な信者の勧誘活動を行う集団の組織に、入信する学生が後を絶たないという現実があります。教団には信教の自由が認められていますが、若者の将来を損なうような教団もあります。カルト対応の特効薬

はなく、科学的素養と信頼できる人間関係を保つことが大切なことを地道に伝える努力の重要性を強調されました。

「日本食とメンタルヘルス～栄養精神医学の可能性」：北海道大学の久住一郎教授による教育講演です。地中海食と魚食は、うつ病発症リスクを軽減させる可能性が指摘されています。日本食も健康に良いとされてきましたが、そのエビデンスは圧倒的に少ないのが現実です。北大精神科の臨床研究では、米飯食は、主菜・副菜として食される魚や大豆製品を介して、睡眠を中心としたメンタルヘル스에良い影響を与える可能性が示唆され、学生のみならず教職員にも有益な健康情報と考えられます。

「防災・減災教育における教科横断的カリキュラムについて」：北海道教育大学の佐々木貴子教授による教育講演です。1995年の阪神・淡路大震災、2011年の東日本大震災以降も、日本各所で大規模自然災害が絶えません。自分ごととして受け止めて、学校でも教科横断的な防災・減災教育のカリキュラムを実施する必要があります。留学生が急増する大学では、その出身国特有の背景因子にも考慮した災害対応が望まれます。

「ダニ媒介性脳炎：日本に潜在する感染のリスクと課題」：北海道大学の好井健太郎准教授による教育講演です。日本では1993年に国内初のダニ媒介性脳炎症例が北海道で発生しました。その後20年以上発生の報告はありませんでしたが、2016年以降、札幌市を含む北海道で4例発症し2例が死亡しています。北海道では広範な地域にダニ媒介性脳炎ウイルスの存在が確認されており、研究や課外活動で流行域に踏み込む学生や教職員には、ワクチン接種を含む適切な予防対策が重要と考えられました。

「アスリートにおけるコンディショニングサポート」：北海道大学の寒川美奈准教授による教育講演です。傷病発生予防と競技能力向上のため、スポーツ選手はコンディショニングが重要です。2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、多くの一流アスリートを抱える大学もあり、スポーツ現場において、ウォームアップやクールダウン、トレーニング、栄養、環境整備など多方面からの科学的なコンディショニングサポートの必要性が益々高まっています。

「大学の国際化に対応する保健管理業務」：日本へ留学する学生と日本から海外へ留学する学生に対する健康管理業務を取り上げたシンポジウムです。留学生の結核や悪性腫瘍への大学としての対応、海外へ留学する学生への健康管理の進め方、高等教育現場におけるメンタルヘルスを含めた留学生支援など、大学保健管理におけるグローバリゼーションへの対応が重要性を増していることが分かりました。

研究集会には全国から約 700 人の大学保健センター・保健管理センター教職員にご参加頂き、上記の特別講演・教育講演・シンポジウム以外にも、一般演題ポスターディスカッション 134 題、ランチョンセミナー 3 題、懇親会などにも出席頂き、学生・教職員の健康管理に関する情報交換を活発に行い、交流を深めて頂きました。最後になりましたが、本研究集会にご参加頂いた会員の先生方、ご講演や座長をお引き受け戴いた先生方、本研究集会運営委員会委員・幹事の皆様に深く御礼を申し上げ、また、公益社団法人全国大学保健管理協会の益々のご発展を祈念して、本報告書発行のご挨拶とさせていただきます。



第 57 回全国大学保健管理研究集会
大会長 橋野 聡